

Y28a

金環日食北限界線共同観測プロジェクト

井上毅（明石市立天文科学館）、福原直人（星が好きな人のための新着情報）、鶴浜義治（つるちゃんのプラネタリウム）、石坂千春（大阪市立科学館）、時政典孝（兵庫県立西はりま天文台公園）、畠浩二（岡山商科大学附属高等学校）、半田利弘（鹿児島大学）、安藤享平、近藤正宏、水谷有宏（郡山市ふれあい科学館）、早水勉（薩摩川内市せんだい宇宙館）、相馬充（国立天文台）、大西浩次（長野高専/2012年金環日食日本委員会）

2012年5月21日の金環日食の北限界線は九州、四国、近畿、中部、関東、東北の各地をとおり日本全国を縦断する。限界線については詳細な予測がなされているが過去の金環日食において限界線付近での共同観測の例はあまり多くない。

我々のグループでは今回の貴重な機会に、金環日食限界線についての観測を呼びかける計画を立てている。この計画では、相馬らによる現時点で最も正確な金環日食限界線の位置のデータ（相馬ほか、本年会）に基づいた(1) 詳細な限界線観測を行い、金環日食予測に必要なパラメーターを決定することで、太陽半径を決定などの科学的計測に寄与すると共に、(2) 各地の市民に日食グラスで等倍での日食観測結果を報告してもらい、人間の肉眼分解能をもって観測した場合の限界線を決めること、(3) 多地点で金環食・部分食画像を同時撮影し集約することで、天体現象を宇宙視点で捕らえることが出来るような実写画像を作る、などを目的とした共同観測を計画している。

本発表では金環日食限界線観測の計画の意義と内容について報告する。